



# BUSINESS REPORT

株主の皆さまへ 第103期報告書

2012年12月1日から2013年11月30日まで

P9

シリーズ ツダコマのマーケット

第2回

NC円テーブル

津田駒工業株式会社

# Dream Navigator ツダコマ

## お客さまの夢をかなえる企業を目指して

2012年に制定いたしました当社のコーポレート・スローガンは“Dream Navigator”。  
1909年の創業以来培ってまいりました専門技術と企業力で、技術革新の早い業界の先頭を走り続け、新しい時代のお客さまの「こうしたい」という夢をかなえる企業を目指します。  
ツダコマの主な製品をご紹介します。

### 繊維機械事業：

#### エアジェットルーム・ウォータジェットルーム

織物はタテ糸にヨコ糸を交差させて織り込んで作ります。ヨコ糸を水(ウォータ)や空気(エア)の噴射力で飛ばして、織り込んでいく織機がジェットルームです。超高速、多様な織物に対応、高品質織物、省エネがツダコマのジェットルームの最大の特徴です。そのスピードは1分間に1,000本以上のヨコ糸を織り込むほど。その品質を確保するためツダコマのノウハウをつぎ込んだ専用コンピュータ(ウィーブ・ナビゲーション・システム)が織機の動きを制御しています。



高速性、省エネを強化した最新型エアジェットルーム  
ZAX9200 MASTER

### 工作機械関連事業：NC円テーブル

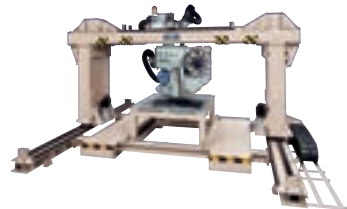
NC円テーブルは金属などの素材を加工する装置の一つです。装置についた円盤(テーブル)に素材を固定し、円盤を1秒(3,600分の1度)単位の精度で回転させて、加工が必要な位置を割り出す装置です。小さな精密機械部品の加工から、航空機部品の加工まで、幅広い分野のさまざまな大きさの部品の精密加工に対応した製品ラインアップがツダコマの特徴です。さらに、この回転する技術を展開した新製品分野へも挑戦しています。



大型部品の精密加工を行う傾斜型  
大型NC円テーブル TTNC-1500

### コンポジット機械事業： 炭素繊維複合素材の自動加工装置

鉄の4分の1の軽さと鉄の10倍の強度を持つ炭素繊維複合素材は、次世代素材として航空機や自動車、一般家電など、軽さと強さが求められるさまざまな製品分野での利用が期待されています。ツダコマは、繊維機械や工作機械関連機器で培った技術を応用・展開し、炭素繊維複合素材の量産化に欠かせない自動加工装置の開発を進めています。自動積層機はすでに新型航空機の部材製造用に採用されるなど、着実に実績を重ねながら、さらなる拡大に挑戦しています。



新型の炭素繊維複合素材の自動積層機



平成26年2月

取締役社長 **菱沼捷二**

第103期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当期のわが国経済は、新政権の経済政策への期待感から、輸出や個人消費を中心に緩やかな回復基調を示してまいりました。しかし、世界経済の状況はいまだ不透明感が強く、今後の実体経済の動向を注視していかなければなりません。

こうした中、当企業グループは受注の確保と売上の拡大に注力いたしました。また、新製品の開発、中国生産体制の構築など、将来に向けた積極的な投資を図ってまいりました。

繊維機械事業は、第1四半期の生産・売上は前期後半の受注減速の影響を受け低迷を余儀なくされました。しかし、第2四半期以降の生産・売上は、年初からの中国市場を中心とした受注の急回復により、堅調に推移いたしました。

一方、工作機械関連事業は、主要な販売先であります工作機械業界の回復が期待した伸びに至らず、当初計画を大きく下回る結果となりました。

この結果、全体では受注高45,616百万円（前期比59.9%増加）、売上高41,177百万円（同比28.0%増加）と増加いたしました。

損益面では、繊維機械事業が生産・売上の回復により黒字を確保いたしましたものの、期待した利益の確保には至らず、加えて工作機械関連事業の回復が遅れましたことから、通期では第1四半期の損失をカバーするには至りませんでした。

この結果、全体では営業損失512百万円（前期は営業損失1,719百万円）、経常損失606百万円（前期は経常損失1,774百万円）、当期純損失698百万円（前期は当期純損失1,752百万円）と誠に遺憾ながら損失計上となりました。

このため、期末配当金につきましては、株主の皆さまには誠に申し訳なく存じますが、引き続き見送りとさせていただきますと存じます。

今後の見通しといたしましては、繊維機械事業では、引き続き中国市場の設備近代化に伴う需要が続くと見ております。一方で、金融政策上のリスクも大きく、中国経済の動向を注視していかなければなりません。引き続き日本本社で生産いたします新型製品の販売促進と、中国生産機の展開を図り、市場シェアの拡大を図ってまいります。

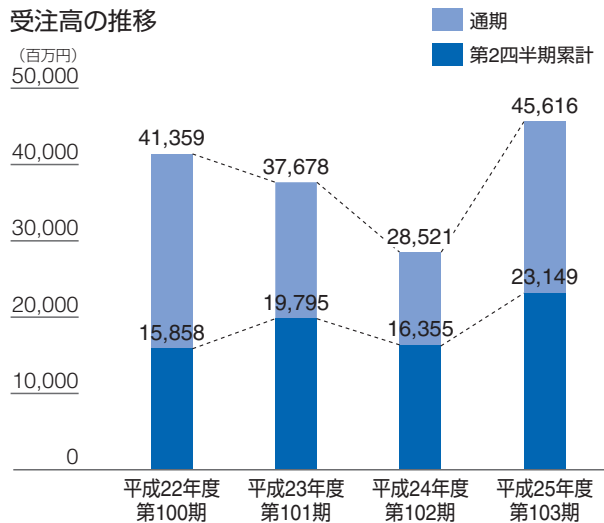
工作機械関連事業では、国内の工作機械業界の回復の目安といわれる月次受注金額1,000億円を超える月が見られるなど、当事業を取り巻く環境には明るさが見られております。国内市場での優位性を堅持するとともに、堅調を維持する米国の基幹産業や、自動車産業の進出が著しい東南アジア市場や中南米市場などへの海外販売を一層強化してまいります。

株主の皆さまには、今後とも変わらないご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 業績の推移（連結）

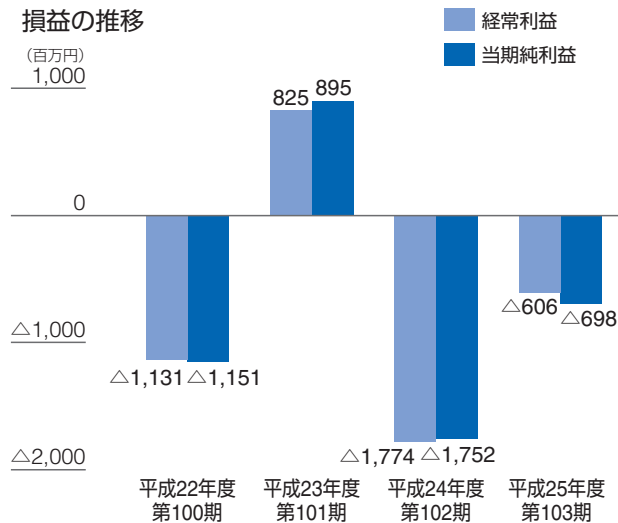
### 受注高の推移

(百万円)  
50,000



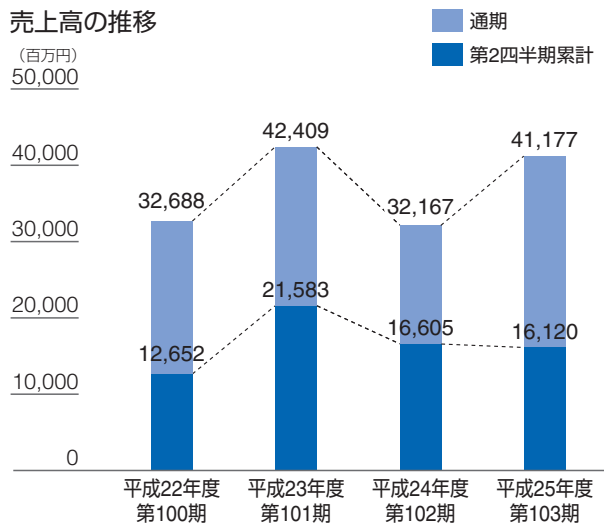
### 損益の推移

(百万円)  
1,000



### 売上高の推移

(百万円)  
50,000



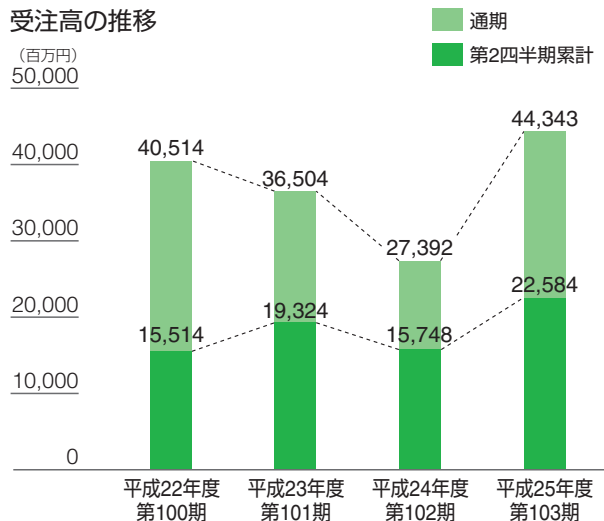
区分	平成22年度 第100期	平成23年度 第101期	平成24年度 第102期	平成25年度 第103期
売上高(百万円)	32,688	42,409	32,167	41,177
経常利益(百万円)	△1,131	825	△1,774	△606
当期純利益(百万円)	△1,151	895	△1,752	△698
1株当たり当期純利益(円)	△18.00	14.01	△27.41	△10.93
純資産(百万円)	17,012	17,917	16,014	16,006
総資産(百万円)	39,796	39,261	34,254	42,435

(注) △印は、損失を示しています。

## 業績の推移（単独）

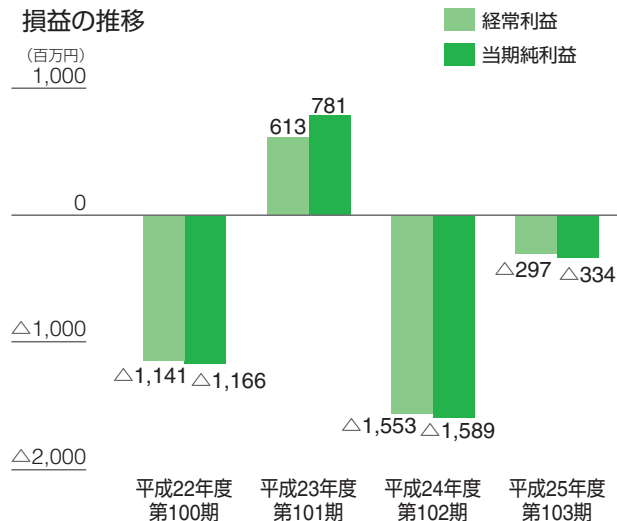
### 受注高の推移

(百万円)  
50,000



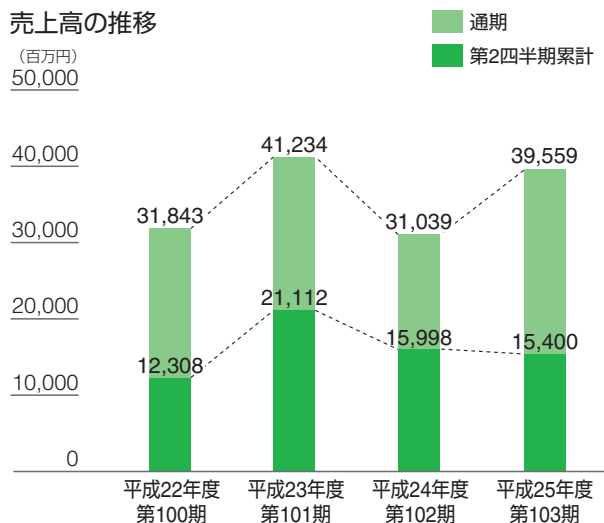
### 損益の推移

(百万円)  
1,000



### 売上高の推移

(百万円)  
50,000



区分	平成22年度 第100期	平成23年度 第101期	平成24年度 第102期	平成25年度 第103期
売上高(百万円)	31,843	41,234	31,039	39,559
経常利益(百万円)	△1,141	613	△1,553	△297
当期純利益(百万円)	△1,166	781	△1,589	△334
1株当たり当期純利益(円)	△18.25	12.22	△24.87	△5.23
純資産(百万円)	15,515	16,233	14,586	14,756
総資産(百万円)	38,456	37,348	32,268	40,520

(注) △印は、損失を示しています。

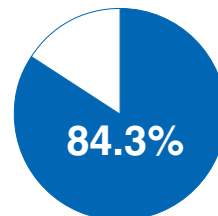
## 繊維機械事業



トルコ国際繊維機械展示会での当社小間

受注高 **39,222** 百万円 (前期比85.8%増加)  
 売上高 **34,728** 百万円 (前期比41.9%増加)  
 営業利益 **403** 百万円 (前期は営業損失1,007百万円)

売上高構成比



中心市場であります中国市場では、中国製繊維製品の輸出が米国・アジア向けを中心に回復傾向を示し、お客さまの設備投資に向けた環境は改善してまいりました。また、尖閣問題を発端に停滞しておりました商談や銀行融資も再開し、L/C（輸出信用状）の開設も順調に進みました。加えて、円安による価格競争力の回復もあり、販売環境は改善してまいりました。当期における中国市場向けの受注高は24,579百万円（前期比174.9%増加）、売上高は20,930百万円（同比70.6%増加）となりました。

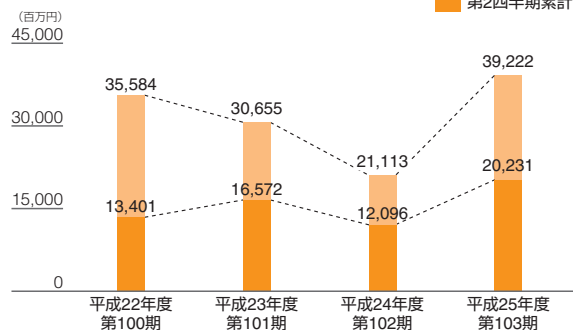
インド市場ではシャツ地やシーツ地などの分野を中心に商談は活発に進みました。しかし、政府による繊維産業の設備近代化政策（技術改善基金：TUF 政府による借入金利子補助政策）の実行遅れや金融引き締めによるL/C開

設遅れなどの影響から、大きな伸びには至りませんでした。

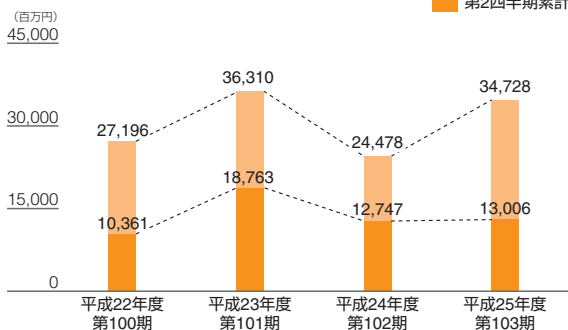
このような状況に対し、当事業部門では生産の増加に対応するための社内体制を整備するとともに、原価低減活動や円安を生かした販売価格の改善に取り組みました。また、高速性能・省エネ性能に優れた新型エアジェットルーム「ZAX9200 MASTER」を開発し、お客さまへ納入いたしました。

ジェットルームの中国生産は、エアジェットルームを生産する合弁会社「経緯津田駒紡織機械（咸陽）有限公司」の工場が平成25年8月に稼働を開始し、9月に初出荷いたしました。また、ウォータージェットルームの生産子会社「津田駒機械製造（常熟）有限公司」は新工場を整備し、生産拡大に向けた体制を整えました。

### 受注高



### 売上高



(注) 平成23年度より、セグメント区分の変更を行っております。

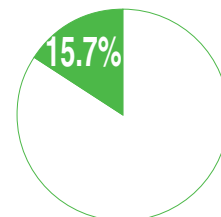
## ■ 工作機械関連事業



インド国際工作機械展示会での当社小間

受注高 **6,394** 百万円 (前期比13.7%減少)  
 売上高 **6,448** 百万円 (前期比16.1%減少)  
 営業利益 **156** 百万円 (前期比59.0%減少)

売上高構成比



当事業の主要な販売先であります工作機械業界では、北米市場では航空機産業、エネルギー産業、自動車産業、医療機器産業などの基幹産業を中心に堅調に推移いたしましたものの、国内市場やアジア市場が総じて低調に推移いたしましたことから、業界全体では本格的な回復には至りませんでした。

こうした状況に対し当事業部門では、円安を背景に各国市場への販売活動を展開いたしました。米国市場では基幹産業に向けた販売活動を強化いたしました。円高是正による当社製品の価格競争力の改善もあり、米国市場での受注は堅調に推移いたしました。

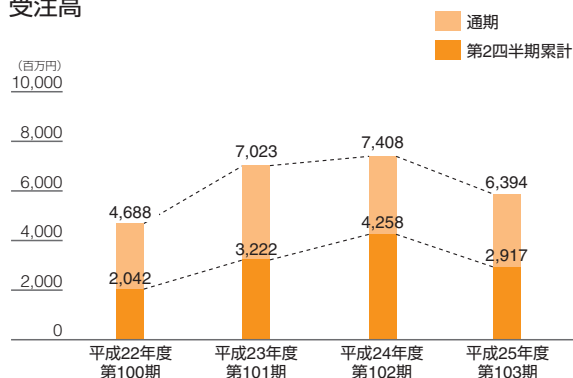
また、オートバイ生産から四輪車生産へのシフトが進む

タイやインドネシアなど東南アジア市場でも積極的に販売活動を展開いたしました。特にタイとインドネシアには新たなサービス代理店を設置し、お客さまに対するバックアップ体制を構築いたしました。中国市場では第3四半期に入り自動車産業向けの商談が回復してまいりました。

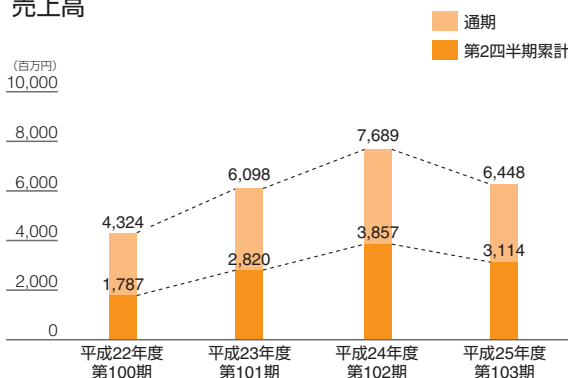
しかしながら、市場の冷え込みの影響もあり、受注・売上ともに当初計画を下回る結果となりました。

開発面では当社独自の技術でありますボールドライブシステムという全く新しい駆動方式を採用したNC円テーブルを商品化し、各国展示会等で高速性能、高生産効率をアピールし、今後の受注拡大に向け取り組みました。

### 受注高



### 売上高



(注) 平成23年度より、セグメント区分の変更を行っております。

# 連結決算の概要

連結貸借対照表		(単位：百万円)	
科目	前期 平成24年11月30日現在	当期 平成25年11月30日現在	
<b>資産の部</b>			
流動資産	21,401	29,186	
固定資産	12,853	13,249	
有形固定資産	10,813	10,381	
無形固定資産	62	54	
投資その他の資産	1,977	2,813	
資産合計	34,254	42,435	
<b>負債の部</b>			
流動負債	13,485	20,135	
固定負債	4,753	6,293	
負債合計	18,239	26,429	
<b>純資産の部</b>			
株主資本	15,431	14,659	
その他の包括利益累計額	△ 381	336	
少数株主持分	964	1,009	
純資産合計	16,014	16,006	
負債純資産合計	34,254	42,435	

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書		(単位：百万円)	
科目	前期 平成23年12月1日から 平成24年11月30日まで	当期 平成24年12月1日から 平成25年11月30日まで	
売上高	32,167	41,177	
売上原価	29,720	37,155	
売上総利益	2,447	4,022	
販売費及び一般管理費	4,166	4,534	
営業損失(△)	△ 1,719	△ 512	
営業外収益	74	98	
営業外費用	129	193	
経常損失(△)	△ 1,774	△ 606	
特別利益	54	0	
特別損失	28	5	
税金等調整前当期純損失(△)	△ 1,747	△ 612	
法人税、住民税及び事業税	25	25	
法人税等調整額	65	21	
法人税等合計	90	46	
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 1,838	△ 658	
少数株主利益又は 少数株主損失(△)	△ 86	40	
当期純損失(△)	△ 1,752	△ 698	

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



## 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当 期 平成24年12月 1日から 平成25年11月30日まで	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
平成24年12月1日残高	12,316	5,469	△ 1,117	△ 1,237	15,431	△ 379	△ 1	—	△ 381	964	16,014
連結会計年度中の変動額											
欠損填補	—	△ 1,589	1,589	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純損失	—	—	△ 698	—	△ 698	—	—	—	—	—	△ 698
連結範囲の変動	—	—	△ 73	—	△ 73	—	—	—	—	—	△ 73
自己株式の取得	—	—	—	△ 0	△ 0	—	—	—	—	—	△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	505	10	202	718	45	763
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 1,589	817	△ 0	△ 772	505	10	202	718	45	△ 8
平成25年11月30日残高	12,316	3,880	△ 299	△ 1,237	14,659	125	8	202	336	1,009	16,006

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成23年12月 1日から 平成24年11月30日まで	平成24年12月 1日から 平成25年11月30日まで
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 412	△ 2,834
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,518	△ 1,529
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,018	1,610
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	24	66
V. 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 888	△ 2,687
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	11,057	10,169
VII. 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	204
VIII. 現金及び現金同等物の期末残高	10,169	7,686

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 企業結合の状況

当社の連結対象子会社は、次の6社であります。

共和電機工業株式会社	電機製品、電気機械器具の 製造・販売
ツダコマ運輸株式会社	梱包・輸送業務
ツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社	警備・営繕業務、損害保険代理業務
株式会社T-Tech Japan	製織用準備機械の販売
津田駒機械設備(上海)有限公司	繊維機械の据付・アフターサービス
津田駒機械製造(常熟)有限公司	ウォータージェットルームの製造・販売

(注) 上記の他、非連結子会社として、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED、ツダコマテクノサポート株式会社、ふぁみーゆツダコマ株式会社があります。

# NC円テーブル

ツダコマの製品は世界各地のさまざまなモノづくり分野の皆さまにご愛顧いただいております。よりよくツダコマをご理解いただくためにいろいろな切り口でツダコマのマーケットをご紹介します。

## NC円テーブルって？

NC円テーブルは、ツダコマの工作機械関連事業の主力製品です。金属などの素材にミクロン単位で切削、溝切り、穴あけなどの加工をするときに使用する装置です。ターンテーブル上に金属などの加工素材を固定し、ターンテーブルを回転させて刃具で加工する位置の割出しを行ったり、連続回転させて切削などを行います。主に工作機械メーカーが製造するマシニングセンタという加工機械（親機）に装着されて使われます。

ツダコマはおよそ50年におよぶNC円テーブル開発の実績から、2013年、NC円テーブルの心臓であるターンテーブルの割出し機構に、従来のウォームギヤに代わる『ボールドライブシステム』という世界初の技術を開発・製品化し、新しいスタンダード技術の確立を目指しています。



RG型NC円テーブル

### ボールドライブシステム

\* モーターの動力をボールとギアの組合せを使ってターンテーブルに伝える世界初の方式。

### ● 航空機、エネルギー産業市場

ツダコマの大型NC円テーブルは、航空機のエンジンや発電所の発電機の部品など大型機械の部品加工に対応します。ときには重量が数十トンにも及ぶ素材を1秒（3,600分の1度）単位の精度で回転させます。ターンテーブルの直径が80cmから最大4mものNC円テーブルで実績があります。

航空機産業では飛行機の翼の加工やジェットエンジンのタービンブレードの加工に、エネルギー産業では風力発電のプロペラや発電機のタービンブレードの加工に使われています。



φ2500 NC円テーブル

### ● 自動車産業市場

ツダコマの専用NC円テーブルは、世界の自動車メーカーの部品加工ラインでご利用いただいております。高精度かつ加工時間を短縮する高速性を備え、過酷な使用環境でも安定した品質を確保しています。



自動車部品加工専用ラインに使用されるRTT型NC円テーブル

### ● 精密・電子機器産業市場

ツダコマのNC円テーブルは、美しい表面加工が特徴的なスマートフォンの躯体の削り出し加工にも活躍しています。また、時計やカメラ、コンピュータ部品など小型・精密部品の加工分野でも活躍しています。さらに、医療分野でも、人工骨の加工などにも使用されます。



小型精密部品加工に対応するRNA型NC円テーブル

# 会社概要

## ●会社概要（平成25年11月30日現在）

本社所在地 〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号  
 設立 昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）

資本金 123億1,654万円  
 従業員 967名

## ●役員状況（平成26年2月27日現在）

代表取締役社長	菱 沼 捷 二	中国生産推進本部 本部長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長
代表取締役専務	竹 鼻 達 夫	総務部門担当、総務部長、知財・情報管理部長、輸出管理室長、中国生産推進本部 本部長補佐、株式会社T-Tech Japan 代表取締役、ふぁみーゆツダコマ株式会社 代表取締役
常務取締役	西 野 順 一	工作機械関連事業担当、工機販売部長
取締役	中 村 進	共和電機工業株式会社担当、中国生産推進本部 副本部長、共和電機工業株式会社 代表取締役
取締役	諏 訪 満	中国生産推進本部 副本部長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 担当
取締役	高 納 伸 宏	コンポジット事業担当
取締役	松 任 馬 幸 治	繊維機械事業担当、繊維機械販売部長
常勤監査役	越 中 隆 一	
常勤監査役	竹 中 富 次 郎	（カジナイロン株式会社 代表取締役会長）
監査役	梶 本 孝 男	（株式会社ヤギコーポレーション 相談役）
監査役	八 木 本 勝 徹	津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長
執行役員	橋 坂 井 一 仁	調達部長
執行役員	大 森 充 生	コンポジット機械部長
執行役員	山 田 茂 生	工機技術部長
執行役員	北 野 浩 司	繊維機械技術部長
執行役員		製造部長、製造部製造第1部長

# 株式の概況（平成25年11月30日現在）

## ●株式の状況

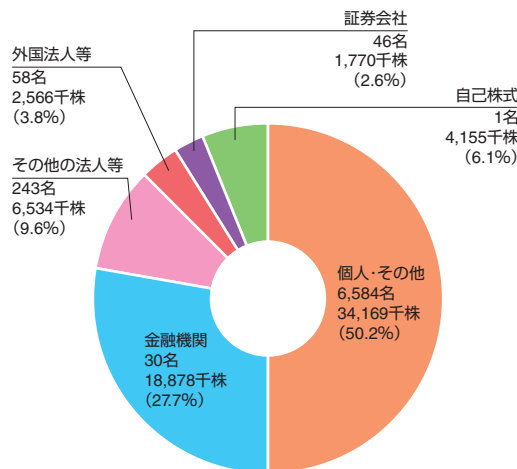
①発行可能株式総数	199,003,000株
②発行済株式の総数	68,075,552株
（内自己株式の数）	（4,155,637株）
③単元株式数	1,000株
④株主数	6,962名

## ●大株主の状況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	8,530
明治安田生命保険相互会社	3,510
株式会社北陸銀行	2,580
株式会社北國銀行	2,320
三井住友海上火災保険株式会社	1,785
東京海上日動火災保険株式会社	1,775
ツダコマ従業員持株会	1,564
野村信託銀行株式会社（投信口）	1,320
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,106
丸紅株式会社	1,023

（注）当社の保有する自己株式4,155千株は上記表には含んでおりません。

## ●株式の分布状況



（カッコ内は持株比率）



## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。